

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名

アゼリーファミリー保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

「うごき うごくってたのしい！」

<テーマの設定理由>

本園は0～2歳児の小規模・異年齢保育を行っており、子ども同士が自然に関わり合う中で育ち合う環境があります。乳幼児期は「動くこと」そのものへの関心が高く、「のぼる」「またぐ」「くぐる」「押す」など様々な動きを繰り返し楽しむ姿が見られます。そこで、身体を十分に動かせる環境を意図的に整え、子どもたちが「やってみたい」「もう一回」と主体的に挑戦できる活動を通して、心と身体の基礎を育てたいと考え、本テーマを設定しました。

2. 活動スケジュール

- ・室内での基礎的な動き遊び（マット・トンネル等）
- ・段差や平均台などを取り入れたチャレンジ遊び
- ・サーキット形式での全身運動遊び
- ・戸外での探索活動（公園・散歩先での自然物との関わり）

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・やわらかいマット、ソフトブロック（坂道、階段）、平均台、トンネル
- ・戸外活動用の散策コースの安全確認

室内に複数のコーナー（マットゾーン、チャレンジゾーン、探索ゾーン）を設け、子どもが自ら選んで移動できる環境を構成しました。

異年齢での関わりが生まれるよう、広さや配置を工夫し、安心して繰り返し挑戦できる空間づくりを行いました。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

マットの上で転がる、ハイハイでトンネルをくぐる、平均台を渡る、段差を上り下りするなど、発達に応じた動き遊びを段階的に実施しました。

はじめは保育者と一緒に行っていた子どもも、繰り返すうちに自らコースを選び、順番を待つ姿や友達の様子を見て挑戦する姿が見られるようになりました。

月齢や発達差に応じて難易度を調整し、「できた」という達成感を積み重ねられるよう配慮しました。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ・「もういっかい！」と繰り返し挑戦する姿
- ・年上児が年下児の様子を見て「がんばれ」と声をかける姿
- ・慎重だった子が、友達の様子を見て自分から平均台に挑戦する姿
- ・転びそうになった際に保育者の手を求め、安心して再挑戦する姿

異年齢ならではの刺激を受け合いながら、「見る→やってみる→できた」という経験が広がっていきました。

5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

子どもたちは「動くこと」そのものに強い喜びを感じており、環境次第で主体性が大きく引き出されることを改めて実感しました。

難易度を少し調整するだけで挑戦意欲が高まり、「できた」という成功体験が自信へとつながっていく姿が見られました。

また、異年齢での関わりが自然な刺激となり、模倣や応援など社会性の芽生えも感じられました。

6. 活動様子

